海外安全対策情報（2026年７月～９月）

１　社会・治安情勢

(1)　最近のパキスタン情勢

アフガニスタンとは、2025年中、パキスタンとの国境地域における緊張は断続的に発生しており、2026年２月にパキスタン軍はアフガニスタン領内のパキスターン・タリバン運動（TTP）キャンプに対して空爆を実施。その後双方の応戦が続き、３月に一時停戦が合意されるも、依然として国境付近では突発的な攻撃が継続しており、実効性のある恒久的な停戦合意には至っていない。

(2)　テロ等の傾向

ア　2025年中、パキスタンでは699件（2024年521件）のテロが発生し５年連続の増加となった。パキスタンのテロ発生件数は、軍及び治安機関等によるテロリスト掃討作戦により2009年以降減少傾向にあったものの、2021年以降増加傾向にある。2021年８月のタリバーンによるアフガニスタン・カブールの制圧以降、地域情勢が不安定化し、パキスタンにも大きな影響が及んでいる。2022年11月、TTPがパキスタン政府との停戦協定の破棄を宣言し、その直後にバロチスタン州やイスラマバードで自爆テロが発生。2025年11月には、イスラマバードの地方裁判所の前で自爆テロが発生し、12人が死亡、36人が負傷した。また、2026年２月にもイスラマバード市内のシーア派モスクにおいて自爆テロが発生し、少なくとも31人が死亡、169人が負傷した。

イ　７月のテロ発生件数は61件であった。テロにより208人が死亡し、159人が負傷した。

８月のテロ発生件数は72件であった。テロにより85人が死亡し、127人が負傷した。

９月のテロ発生件数は68件であった。テロにより147人が死亡し、184人が負傷した。

テロ発生件数（2026年４月～６月期）から39件増加（162件→201件）し、死者は200人増加（240人→440人）、負傷者は163人増加（307人→470人）した。

ウ　今期においては、即席爆破装置（IED）攻撃や銃撃が主要なテロの手段であり、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設を標的とする旨公言している勢力もある。

エ　都市部・地方問わず、治安当局によるテロリストの拘束及び武器・弾薬等の押収が多く確認された。治安当局による精力的な取締りが行われているが、依然としてイスラマバード首都圏を含めた都市部においてもテロの脅威は存在しているものの、これらに対応すべくイスラマバード警察は治安維持に取り組んでいる。

(3)　各種デモ

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向にあり、デモ参加者の行動がエスカレートし一部が暴徒化することもある。

2　一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1)　銃器使用犯罪

今期においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が頻発している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器のまん延が問題となっている。

(2)　その他

今期においても、違法な銃器・爆発物・薬物の押収事案が多数報じられた。

なお、以下についても引き続き注意が必要である。

ア　招き入れ型侵入犯罪

イスラマバード首都圏は富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に加担する事件が時折発生している。また、家主の不在の間に家屋に侵入し、金品を窃取する事件が発生しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

イ　人誉殺人

当地では地方を中心に、親が認めない相手との交際等で、家族の人誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される、所謂人誉殺人が依然として発生している。今なおパキスタン社会では、毎年多くの女性が人誉殺人の犠牲になっている。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させる風習が都市部で残存しており、それに起因するトラブルで結婚相手やその家族・親族等からのDV被害の発生も問題となっている。

ウ　性犯罪及び虐待

当地では、婦女暴行を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は非常に多い模様だが、同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことが多く、被害実態は正確に把握できていない。被害者の年齢及び性別は多様で、特に子どもをターゲットにした極めて悪質な犯行も発生している。また、最近の報道によれば、イスラマバード市内居住の外国人駐在員女性が自宅の警備に従事している警

備員に寝室に押し入られ、性的暴行を受けた事件が発生したとのことであり、当地では、「自分の身は自分で守る」という意識を常に持ち、決して油断することなく、細心の注意を払うことが重要である。

エ　サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局（FIA）サイバー犯罪部門は、SNS を通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。FIA では、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

オ　プロの物乞い

イスラマバード首都圏では、マフィアの支配下にある物乞いが問題となっており、イスラマバード警察では摘発に力を入れている。道路上での物乞いを装って、拳銃強盗を働くケースも報告されている。物乞いに窓を開けて対応する等の行動は、犯罪者に付け入る隙を与えるため、厳に慎む必要がある。

カ　宗教上の禁忌に対する反応

2021年12月３日、パンジャーブ州シアルコートの工場において、スリランカ人マネージャーをパキスタン人従業員が撲殺し、その遺体に放火する事件が発生した。事件の発端は、宗教的禁忌（預言者ムハンマドに対する冒涜）に起因しており、激高した多くの従業員が暴徒化した。宗教上の禁忌に十分な注意を払い行動する必要がある。

３　誘拐・脅迫事件発生情報

今期、日本人を対象とする誘拐事件は発生していない。

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件がしばしば発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースのほか、犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な困難を伴うと共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

また、女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

４　日本企業の安全に関わる諸問題

今期においては発生していないものの近年に以下の邦人被害を含む事案が報告されている。

(1)　邦人被害について

2024 年４月 19 日、カラチ市内コーランギー地区において、邦人複数人が乗車する車列が襲撃される事件が発生し、邦人１人が負傷したほか、攻撃に参加したテロリスト２人及び警備員１人が死亡、警備員１人及び通行人１人の計２人が負傷した。

(2)　外国人被害について

ア　2020 年 12 月 15 日、カラチ市南地区において中国人の車両にリモート爆弾が設置されたが不発だった。この中国人はレストランを所有している。同人がクリフトン地区のショッピングモールから帰宅していたところ、オートバイに乗車した２人の男が中国人車両に接触した後に逃走した。その際に爆発物が磁石で取り付けられた。

イ　2021 年４月、クエッタにおいて駐パキスタン中国大使が滞在していたホテルに対するテロが発生した。さらに、同年７月 14 日には、KP 州のダス水力発電プロジェクトに従事するスタッフらが乗る中国企業のシャトルバスが建設現場に向かう途上で攻撃に遭い、中国人及びパキスタン人十数人が死亡し、数人が負傷した。

ウ　2021 年８月 20 日、バロチスタン州グワダル市において CPEC 関連事業に従事する中国人技術者を狙った自爆テロが発生し、中国人及びパキスタン人９人が死亡、複数の負傷者が出た。

エ　2022 年４月 26 日午後、カラチ市のカラチ大学に隣接する孔子学院前で自爆テロが発生し、中国人教員３人を含む４人が死亡、２人が負傷した。

オ　2022 年９月 28 日午後、カラチ市サダル地区にある歯科医院内で殺害事件が発生し、中国人１人が射殺され、２人が負傷した。

カ　2024 年３月 26 日、KP 州においてダス水力発電プロジェクトに従事するスタッフらを乗せた車両が建設現場に向かう途上で攻撃に遭い、中国人５人とパキスタン人１人が死亡した。

キ　2024 年９月 22 日、KP 州スワート郡で、12 か国の外交官を含む代表団が、イスラマバードに戻る途中で IED による攻撃を受けた。外交官らは無事イスラマバードに戻ったが、車列を警護していた警察車両に乗車の警察官１人が死亡し、ほか５人が負傷した。

ク　2024 年 10 月６日、カラチ市ジンナー国際空港近傍において、中国人技術者らを狙った自爆テロが発生し、中国人２人及びパキスタン人１人が死亡、複数の負傷者が出た。

(3)　総論

当地においては、活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、まずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、速やかな退去を命ぜられ、現地治安当局による安全対策がなされないまま放置され、犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続を行うことが必要である。

5　テロ発生状況

2024年

4月	34件、死者	47人、負傷者	32人
5月	36件、死者	35人、負傷者	57人
6月	27件、死者	32人、負傷者	36人
7月	38件、死者	61人、負傷者	44人
8月	59件、死者	84人、負傷者	166人
9月	45件、死者	54人、負傷者	117人
10月	48件、死者	100人、負傷者	80人
11月	61件、死者	169人、負傷者	225人
12月	44件、死者	63人、負傷者	74人
年間総数	521件、死者	852人、負傷者	1,092人

2025年

1月	56件、死者	70人、負傷者	109人
2月	54件、死者	121人、負傷者	103人
3月	94件、死者	207人、負傷者	229人
4月	40件、死者	47人、負傷者	77人
5月	46件、死者	70人、負傷者	111人
6月	63件、死者	72人、負傷者	95人
7月	58件、死者	68人、負傷者	93人
8月	98件、死者	87人、負傷者	155人
9月	55件、死者	122人、負傷者	130人
10月	41件、死者	61人、負傷者	62人
11月	48件、死者	57人、負傷者	93人
12月	38件、死者	48人、負傷者	97人
年間総数	699件、死者	1,034人、負傷者	1,366人

2026年

1月	55件、死者	180人、負傷者	64人
2月	53件、死者	106人、負傷者	250人
3月	61件、死者	62人、負傷者	114人
4月	55件、死者	57人、負傷者	88人
5月	57件、死者	117人、負傷者	163人
6月	50件、死者	66人、負傷者	56人
7月	61件、死者	208人、負傷者	159人
8月	72件、死者	85人、負傷者	127人
9月	68件、死者	147人、負傷者	184人

（出典：パキスタン平和研究所「PIPS」）

6　安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

7月

○　１日、KP州バジョール郡マムンド地区シール・ダマ・ドラで、身元不明の武装集団からの発砲を受け、辺境警備隊（FC）隊員１人が殉職した。

○　パキスタン紛争安全保障研究所（PICSS）の報告書によると、６月に全国で発生したテロ攻撃は前月の128件から108件に減少した（前月比16％減）。治安部隊は作戦でテロリスト184人を殺害したほか、民間人52人（前月比27％減）及び治安要員26人（前月比62％減）が死亡した。

○　１日深夜、KP州バジョール郡ワル・マムンド地区ダマ・ドラ付近で、ドローン攻撃とみられる事案が発生し、３人が死亡、10人が負傷した。

○　２日、KP州ペシャワール市パジャギ・ロード沿いにある住宅の外で手榴弾が爆発し、子ども１人が死亡、２人が負傷した。

○　３日、KP州モーマンド郡マチニで、警察のパトロール部隊がテロリストの攻撃を受け、警察官２人が殉職した。

○　５日未明、KP州南ワジリスタン郡南部ビルマール地区ナルガシで、住宅がドローン攻撃を受け、少女３人が死亡、４人が負傷した。

○　５日、身元不明の武装集団が KP州スワート郡シャカルダラにあるアワミ民族党（ANP）同郡副支部長の住宅を襲撃し、５人が負傷した。その後、武装集団は負傷者を搬送中の救急車も襲撃し、救助隊員１人が負傷した。

○　５日夜、バロチスタン州クエッタ市郊外ハナ・ウラクで、地元住民と武装集団との間で激しい衝突が発生し、３人が死亡、少なくとも９人が負傷したほか、少なくとも７人が拉致された。これを受け、治安部隊は作戦を開始し、少なくとも４人の犯人を殺害したが、銃撃戦で少なくとも９人の警察官が負傷した。

○　６日、KP州バンヌー郡のバカケル警察署が狙撃攻撃を受け、警察官１人が負傷した。

○　バロチスタン州グワダル郡で、警察が同州警察隊（Balochistan Constabulary）隊員から強奪されたとされる武器を回収するための強制捜査を実施した際に武装集団との銃撃戦が発生し、武器強奪事件に関連して逮捕されていた容疑者２人が死亡した。

○　６日夜、バロチスタン州ジアーラト郡のマンギ・ダム付近で、警察検問所がテロリストの襲撃を受け、少なくとも９人の警察官が殉職したほか、５人が行方不明となった。

○　７日、バロチスタン州クエッタ市サリアブにある広場で手榴弾が爆発し、神学校の生徒２人が死亡、１人が負傷した。また、同州ドゥキ郡ルニの道路脇で即席起爆装置（IED）が爆発し、男性１人が死亡した。

○　７日、シンド州警察テロ対策局（CTD）はカラチ市での情報に基づく作戦（IBO）で、バローチ解放軍（BLA）と関係があるとされる２人を逮捕した。

○　７日、KP州バンヌー郡バカケル地区で、TTPのテロリストによるクアッドコプター攻撃が発生し、１人が死亡、４人が負傷した。

○　８日、アフメド・シャリフ・チョードリー軍統合広報局（ISPR）局長は記

者会見を実施し、７月５日以降にバロチスタン州で発生したテロ攻撃及びその後の作戦により、少なくとも42人の治安要員及び民間人が死亡した旨発表した。

○　４日～５日にクエッタ市郊外・ハナ・ウラク渓谷で発生した事案では民間人４人が死亡、６人が負傷したほか、６日夜にジアーラト郡のマンギ・ダムを警備する警察検問所がTTPのテロリストの攻撃を受け、警察官９人が殉職した。ジアーラト郡の事案を受け、警察官は反撃でテロリスト15人を殺害したが、増援が現場に到着する前にテロリストにより人質に取られていた警察官18人が殉職した。治安部隊は掃討作戦で、少なくとも11人のテロリストを殺害した。さらに、８日、ラズベラ郡ベラ地区で、軍の車列がBLAからの襲撃を受け、兵士11人が殉職した。

○　８日、バロチスタン州クズダール郡で、PPPの指導者であるシャフィクール・ラフマーン・メンガル氏の邸宅が自爆テロ攻撃を受け、警察官を含む少なくとも17人が死亡、約30人が負傷した。邸宅に配置されていた治安部隊は銃撃戦で自爆テロ犯を含む犯人５人を殺害した。メンガル氏は無傷だった。BLAが犯行声明を発出した。

○　９日、シンド州警察CTDはラシュカレ・ジャングビ（LeJ）と関連のあるミリタント２人を逮捕した旨発表した。

○　９日、KP州タンク郡のメインバザールで、警察官１人が身元不明の武装集団からの発砲を受け、殉職した。

○　９日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡ワンダ・アリにある住宅が、身元不明の武装集団からの手榴弾攻撃と発砲を受け、子ども２人と女性１人が負傷した。

○　９日深夜、バロチスタン州内務省は、週末にクエッタ市郊外ハナ・ウラクで武装集団に拉致された11人が解放されたと発表した。

○　10日、ブグティ・バロチスタン州首席大臣は、７月５日からバロチスタン州クエッタ郡シャバンで展開されている大規模な対テロ作戦「シャバン作戦」において、治安部隊が過去48時間で新たに39人のテロリストを殺害し、これまでに合計75人のテロリストが殺害された旨Xで発表した。

○　また、クズダール郡ゼディで、テロリストが警察署を襲撃しようとしたが、軍及びFCが直ちに作戦を展開し、少なくとも８人のテロリストを殺害、同地域でのヘリコプター作戦でさらに６人のテロリストも殺害された。

○　10日、KP州北ワジリスタン郡スピンワム地区で、警察部隊がテロリストの発砲を受け、警察官２人が殉職した。

○　10日、KP州カラク郡で、グルガリ警察署がクアッドコプター攻撃を受け、少なくとも１人の警察官が負傷した。

○　10日、パンジャーブ州警察CTDは、サヒワル郡での作戦でTTPのテロリスト１人を逮捕した。

○　11日、KP州南ワジリスタン郡北部ラダ地区でクアッドコプター攻撃が発生し、１人が死亡、２人が負傷した。

○　11日、KP州南ワジリスタン郡南部ワナ地区カリコートで、警察官１人が身元不明の武装集団の発砲を受け、軽傷を負った。
○　11日、KP州バジョール郡サラルザイ地区マンダルで、車両内での爆発とみられる事案が発生し、車内にいた男性１人が死亡した。
○　11日、KP州ラッキー・マルワット郡ハヤートケルで、自宅に押し入った身元不明の武装集団の発砲を受け、連邦警察隊（Federal Constabulary）隊員１人が殉職した。
○　12日、バロチスタン州ワシュク郡マシュケル地区で、パンジャーブ州出身の労働者５人がテロリストに射殺された。
○　12日、KP州ブネイル郡トタライで、CTDの警部補（sub-inspector）が身元不明の武装集団の発砲を受け、殉職した。
○　12日、バロチスタン州スーラブ郡とワシュク郡ベシマ地区を結ぶ高速道路上のスル・チェル・カルガリ付近で、クエッタ行きの乗合バスが高速道路を封鎖していた身元不明の武装集団からの停止命令を拒否した際に発砲を受け、女性を含む少なくとも２人の乗客が負傷した。
○　13日、KP州タンク郡ジャンドラ・ロードで、パトロール中の警察の装甲兵員輸送車（APC）が身元不明のテロリストによるIED攻撃を受け、警察官２人が殉職、３人が負傷した。
○　13日、KP州バンヌー郡カフシケル・バボ・ジャンで、帰宅中の警察官１人が身元不明の武装集団からの発砲を受け、殉職した。
○　13日、KP州ラッキー・マルワット郡で、治安部隊及び法執行機関はテロ組織の著人な司令官１人を逮捕した。
○　14日、シンド州警察CTD警視正（SSP）はランジャール同州内相と共同記者会見を実施し、６月27日にカラチ市で発生したレンジャー部隊駐屯地施設襲撃事件の「首謀者」が、共犯者と共に逮捕された旨発表するとともに、この事件にアフガニスタンからの勢力が関与していたと主張した。
○　14日、KP州ペシャワール郡ハサンケル地区ファキーリ・バナルにある廃墟となった警察検問所で、警察の爆弾処理班（BDU）隊員１人がIEDの処理中に殉職した。
○　14日にKP州バンヌー郡バカケル地区でポリオ予防接種の任務に向かう途中に身元不明の集団に拉致された警察官１人が、部族長老主導の交渉の結果、無事解放された。
○　15日、KP州バンヌー郡で、テロリストが爆発物を積んだ車両でミルヤン警察署を襲撃し、警察官６人及び民間人４人が負傷した。非合法組織パキスタン・ムジャヒディーン連合（IMP）が犯行声明を発出した。
同日、同州ローワー・ディール郡ハイダライ・トップで、警察が捜索・掃討作戦を展開していた際にテロリストとの間で銃撃戦が発生し、警察官２人が殉職、16人が負傷した。
○　15日、KP州クーラム郡で、警察検問所が身元不明の武装集団の襲撃を受け、少なくとも７人の警察官が負傷した。

○　15日夜、KP州スワビ郡のガラ・モール付近のガジ・ロードで、中国が支援するタルベラ・ダム第５次拡張事業（T-5）の中国人プロジェクト・マネージャー専属運転手として勤務していた男性１人が、身元不明の武装集団の発砲を受け死亡した。

○　17日、シンド州カラチ市ソラーブ・ゴートで、警察は銃撃戦でTTPと関係が疑われるアフガン人の恐喝容疑者２人を殺害した。

○　17日、AJKのタインーダルコートで、タンビール・イリヤス元AJK首相関係者の車列が身元不明の武装集団からの銃撃を受け、同元AJK首相の専属警護員１人が死亡した。

○　18日、KP州バンヌー郡バカケル地区で治安部隊はIBOを実施し、テロリスト３人を殺害した。

　同州南ワジリスタン郡南部ワナ地区で、治安部隊は作戦を実施し、自爆攻撃に使用される予定だった爆発物を積んだ車両及びオートバイを破壊するとともに、テロリスト１人を殺害、５人を負傷させた。

○　18日、KP州ハングー郡のカジナ・バンダ学校付近の検問所で、警察はテロリストの攻撃を阻止し、撃退した。銃撃戦でエリート部隊の隊員１人が負傷した。

○　19日、KP州バンヌー郡での３日連続となる合同作戦で、治安部隊はグレラ・シャー・ジャハーンでIEDを設置しようとしていたテロ容疑者１人を殺害した他、８人を拘束した。

○　19日、バロチスタン州デラ・ブグティ郡パット・フィーデル付近で、身元不明のテロリストが道路脇に仕掛けたとみられるIEDが爆発し、少年１人が死亡した。

○　20日、KP州バンヌー郡ミルヤン地区各地で、警察及び法執行機関は捜索・掃討作戦を実施し、６つのIEDを処理するとともに、容疑者14人を逮捕した。

○　20日、バロチスタン州チャガイ郡ダーダル付近で、同州歳入局が設置していた仮設の検問所が身元不明の武装集団に襲撃され、同局職員３人が拉致された。

○　21日、バロチスタン州マストゥング郡の国道N-65付近でIEDが爆発し、車の運転手１人が死亡、５人が負傷した。

○　21日、KP州バンヌー郡で、TTPのためにソーシャル・メディア（特にTikTok）を運用していたとされる学生８人が逮捕された。

○　21日、KP州ハングー郡のカラパ・ロードでIEDが爆発し、同州クーラム郡平和委員会の主要メンバー１人が死亡、１人が負傷した。

○　23日～24日、KP州タンク郡でTTPのテロリストが合同検問所の警備を突破しようとしたが、治安部隊は襲撃を迅速に阻止し、テロリスト12人を殺害した。その後テロリストは爆発物を積んだ車両を外周壁に突入させ、少なくとも14人の治安要員と政府職員１人が殉職した。

○　24日、KP州ペシャワール市郊外ハサンケルで、検問所がクアッドコプター

攻撃を受け、警察官３人が軽傷を負った。

○　24日未明、KP州コハート郡の料金所付近で、密輸取締を行っていた税関取締班が身元不明のテロリストの襲撃を受け、税関職員１人が殉職、もう１人が負傷した。

○　25日、KP州南ワジリスタン郡で、TTPのテロリストが検問所へ爆発物を積んだ車両を突入させようとしたが、治安部隊が阻止し、自爆テロ犯を含むテロリスト４人全員を殺害した。

○　25日、KP州バジョール郡サラルザイ地区のタリ・ダム付近でIEDが爆発し、若者２人が死亡した。

○　26日、KP州南ワジリスタン郡南部ビルマール地区の住宅付近に迫撃砲が着弾し、女性１人が死亡、その息子２人が負傷した。

○　26日深夜、バロチスタン州クエッタ市の私立病院が身元不明のオートバイ集団の手榴弾攻撃を受け、小児患者１人を含む４人が負傷した。

○　26日、KP州ラッキー・マルワット郡シャー・ハサンケルで、FC隊員１人がテロリストの発砲を受け殉職した。警察によると、前夜にもテロリストは同地の女子中学校を爆発物で爆破していた。

○　27日、KP州オラクザイ郡北部コヒ・カレイ、マモ・チーナ及びヤク・カンドでISKP及びTTPの間で衝突が発生し、テロリスト５人が死亡、複数人が負傷した。

○　27日、KP州北ワジリスタン郡ハディの住宅が身元不明のテロリストによるクアッドコプター攻撃を受け、男性及びその妻が重傷を負った。

○　27日、KP州ペシャワール市マタニで警察官１人が自宅からテロリストに拉致されたが、後に警察を辞職することを約束したとして解放された。

　同日、同市レギ・モデル・タウンで警察は銃撃戦でテロリスト１人を殺害した。

○　27日夕方、KP州南ワジリスタン郡南部ビルマール地区のモスク付近でクアッドコプターによるものとみられる攻撃が発生し、聖職者１人が死亡、２人が負傷した。

○　28日、バロチスタン州バルカン郡カタ・チョウキで、パトロール中の警察車両が武装集団の襲撃を受けた。その後、警察と武装集団の間で銃撃戦が発生し、警察官１人が殉職、警察官１人が負傷した。

　同日、同州ケチ郡カラタクで、車両で移動していた労働者７人（うち半数はパンジャーブ州出身者）が武装集団に拉致された。労働者全員が開発プロジェクトに関わっており、うち１人は殺害された。

　同日、同州クズダール郡カルク地区で、民間建設会社の従業員４人が武装集団に拉致された。従業員全員は同地区の緊急洪水対策プロジェクトに従事していた。

○　29日深夜、KP州ハング一郡カジーナ・バンダ検問所がTTPのテロリストの襲撃を受け、警視（DSP）１人を含む警察官９人が殉職、28人が負傷した。その後、警察は応戦し、テロリスト15人を殺害、多数を負傷させた。

○　29日夜、シンド州カラチ市グルシャニ・イクバールにあるアル・コサル大学付近で警察CTDの車両が手榴弾攻撃を受け、CTD職員２人が負傷した。
○　29日深夜、パンジャーブ州オカラ郡ウエスタン・バイパス付近で、CTDはインドの調査分析局（RAW）の工作員と見られる２人を逮捕した。容疑者らはオカラ郡及びその周辺にある重要施設や治安施設を標的としたテロ活動を計画していた。
○　30日、バロチスタン州ケチ郡トゥルバット地区ナシラバードで、28日に同郡カラタクで車両での移動中に身元不明の武装集団に誘拐された労働者７人のうち６人の遺体が発見された（７人のうち１人は28日に殺害された）。遺体のうち４人はパンジャーブ州出身者、２人はKP州出身者であり、遺体には拷問の痕や銃創があった。
○　31日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡ダラバン・カランで、警察部隊がテロリストによる待ち伏せ攻撃を受け、警察官２人が殉職した。
○　31日、南ワジリスタン郡北部ラダ地区の住宅付近で、クアッドコプターとみられる機体が爆発物を投下し、子ども２人が負傷した他、同郡北部サラロガ地区で、地元の平和委員会メンバー２人が身元不明の襲撃者の発砲を受け死亡した。また、同州バンヌー郡ワジール地区で、アフマドザイ族平和委員会メンバーの長老がテロリストの標的となり、２人が負傷した。
○　31日、KP州南ワジリスタン郡南部ビルマール地区で、JUI-F所属の宗教指導者が身元不明の武装集団により射殺された。
○　中央警察署（CPO）が発表した最新のデータによると、対テロ戦争の開始に伴いテロ攻撃が激化した2001年以降、KP州警察の職員2,413人が職務中に殉職した。
○　パキスタン紛争・安全保障研究所（PICSS）の月例安全保障評価報告書によると、７月はテロ攻撃や対テロ作戦に関連する暴力行為が急激に激化し、2026年で最も犠牲者の多かった月となり、205人が死亡した。うち112人は治安要員であり、2023年１月以来の月間最多死者数かつ過去10年以上で２番目に多い数字となった。一方でテロリスト401人が殺害され、過去10年以上で最多の月間殺害数となった。

８月
○　１日、KP州北ワジリスタン郡ラズマク地区で、治安部隊はIBOを実施し、TTPのテロリスト５人を殺害した。銃撃戦で軍人１人が殉職した。
○　２日、KP州スワート郡のカバル警察署付近で自爆テロが発生し、警察官を含む少なくとも14人が死亡、18人が負傷した。同警察署付近では、相次ぐテロを受け、政府に対して平和の確保を求める抗議デモが行われていた。
○　２日、KP州ハングー郡チャプリ・ナルヤブで、治安部隊はIBOを実施し、７月30日に同郡で発生した検問所襲撃事件（警察官９人が死亡、28人が負傷）のTTPの首謀者１人を殺害した。
○　２日、KP州で過去２か月に亘り継続している「Operation 11 Garaj」の一

環として治安部隊はIBOを実施し、TTPのテロリストをバジョール郡シャクロで２人、ハイバル郡ダルビケル及びバタンで８人それぞれ殺害した。
○　２日、KP州ペシャワール市のピール・ザコリ橋付近で、警察車両を標的としたIEDが爆発し、警察官２人が軽傷を負った。
○　２日、バロチスタン州クエッタ市郊外ワリ・タンギで地雷が爆発し、地元男性１人が死亡した。
○　２日夜、KP州バンヌー郡ジャンニケルのウォール・ヌール・マーケットでドローン攻撃が発生し、少なくとも２人が死亡、５人が負傷した。
○　３日、KP州南ワジリスタン郡南部ワナ地区のスーパーマーケットで、「圧力爆弾」によるものとみられる爆発が発生し、宗教学者１人が死亡した。
○　２日にKP州スワート郡のカバル警察署付近で自爆テロ事件が発生し、３日時点で警察官７人及び民間人10人が死亡し、警察官18人及び民間人９人が負傷した。TTPが犯行声明を出した。
○　３日、バロチスタン州マストゥング郡の私設図書館付近で、警察官１人が身元不明の武装集団に射殺された。
○　３日、同州ラズベラ郡でナミ検問所が武装集団に襲撃され、警部補１人が拉致された。
○　３日、KP州ハングー郡ダランの民間銀行が身元不明のテロリストに襲撃され、支店長及び出納係が拉致された。
○　３日、AJK政府は、同地で最近発生した騒乱の際、警察及びレンジャー部隊を含む７人の法執行要員が殉職、45人が重傷及び多数が軽傷を負ったと発表した。
○　４日、KP州南ワジリスタン郡北部サラロガ地区のアフマドワムで、遊牧民の家族が一時的に居住していたテントに迫撃砲が着弾し、女性２人及び少女１人が死亡、３人が負傷した。また、同郡北部ラダ地区のチャルウェシュタイで、クアッドコプターによる攻撃とみられる事件が発生し、３人が負傷した。
○　５日、KP州ラッキー・マルワット郡ベフラムケルの民家の中で手榴弾が爆発し、女性と子どもを含む３人が死亡、子ども３人が負傷した。
○　６日、KP州バンヌー郡マスーマバードで、警察官１人が身元不明の武装集団の発砲を受け、殉職した。
○　６日、KP州北ワジリスタン郡ミランシャー地区で爆発が発生し、１人が死亡、１人が重傷を負った。
○　６日、シンド州ハイデラバード郡警察CTDは、セーリシュ・ナガルでIBOを実施し、指人手配中のテロ容疑者１人を逮捕した。同テロ容疑者はシンド革命軍（SRA）への資金援助に関与したとされる。
○　６日深夜、バロチスタン州カッチ郡で警察官１人が身元不明の武装集団に射殺された。
○　９日、KP州南ワジリスタン郡南部トイ・クラ地区で、部族の長老２人が身元不明の武装集団に射殺された。

○　９日、KP州ラッキー・マルワット郡サイードケルで、テロリストの発砲を受け警察官１人が殉職、１人が重傷を負った。
○　９日深夜、KP州スワート郡マタ地区のチャテカル警察検問所が12人以上のテロリストの襲撃を受けた。
○　10日、同郡バカケル地区で襲撃者の銃撃を受け、警察官１人が殉職した。
○　11日、パンジャーブ州ラワルピンディ郡のモール・ロードで、PTI党員とされる男性は治安要員に向けて発砲し、１人を負傷させた。これを受け、法執行官は同男性を射殺した。PTI側は本件との関与を否定している。
○　12日朝、バロチスタン州スラーブ郡で、テロリストが準備していた車両搭載型即席爆発装置（VBIED）が爆発し、少なくとも８人のテロリストが死亡、多数が負傷、また、少なくとも民間人３人も死亡した。
○　12日、バロチスタン州チャガイ郡マヒアン・コールで、民間銅鉱山会社に勤務する労働者７人が武装集団に拉致された。
○　12日、KP州バンヌー郡バクマリ・ガソリンスタンド付近でFC隊員１人が身元不明のテロリストの発砲を受け、殉職した。
○　14日、バロチスタン州マストゥング郡カド・コチャ地区で、クエッタ・カラチ国道を走行していたランゴーブ同州内相の車列が武装集団の襲撃を受け、同内相の警護をしていた警察官７人を含む９人が負傷した。同内相は無傷だった。
○　14日未明、KP州バジョール郡バラング地区で検問所がテロリストに襲撃され、警察官１人が殉職、１人が負傷した。
○　14日、KP州カラク郡バンダ・ダウド・シャー地区のグルグリ警察署がクアッドコプター攻撃を受け、警察官３人が負傷した。
○　14日、バロチスタン州ケチ郡トゥルバット地区のトゥルバット・メイン・ロードでFCの車両を狙った爆発が発生し、５人が負傷した。
○　14日、KP州クーラム郡サダ・バイパス・ロード付近のテンド検問所がテロリストの狙撃を受け、FC隊員１人が殉職した。
○　14日、KP州クーラム郡ペワルでIEDが爆発し、１人が重傷を負った。
○　14日、KP州クーラム郡南部サル・ゴルガの住宅に砲弾が直撃し、男性１人が死亡、同人の家族３人が負傷した。
○　14日、部族長老であり、国民党（NP）中央女性書記のヤースミーン・レフリの父親ハジ・ヌール・アフマド・レフリが、約１か月に亘る拘束の末、無事救出された。
○　15日、KP州クーラム郡南部アリザイでFCの検問所がテロリストによる２度のドローン攻撃を受け、兵士２人が負傷した。
○　16日朝、KP州バンヌー郡スラニで警察官１人が身元不明の武装集団の発砲を受け、殉職した。
○　16日、バロチスタン州クエッタ市近郊のワリ・タンギでIEDが爆発し、２人が死亡、３人が負傷した。
○　16日、バロチスタン州クエッタ市郊外キリ・ライサニで、元アフガン軍将

校１人が身元不明の武装集団に射殺された。
○　16日、KP州クーラム郡パラチナルで地雷が爆発し、３人が負傷した。
○　16日、バロチスタン州ノシュキ郡カリ・メンガルで、テロリストが民家に押し入り、公務員の女性１人と同人の娘１人を殺害した。
○　25日、KP州バンヌー郡バンヌーで、警察１人が勤務先へ向かう途中にオートバイに乗ったテロリストから発砲され、負傷した。
○　27日、KP州ラッキー・マルワット郡で警察平和委員会（Police Aman Committee）とクラム・パー（Kurram Par）の住民らが、KP州ペシャワールでの警察警察官1人が誘拐された事件を受け、街頭抗議活動を行った。
○　27日、KP州ペシャワール市でチャムカニ警察署（Chamkani Police）のタルナブ駐在所（Tarnab Post）に向け、クアッドコプターから２発の投射体が発射され、警察２人、市民７人が負傷した。警察を標的とした初のドローン攻撃と見られる。
○　28日、KP州アッパー南ワジリスタン郡で即席爆発装置（IED）が爆発し、平和委員会のメンバー１人が死亡、８人が負傷した。
○　28日、警察CTDは、シンド州カラチで、シバーヘ・モハンマド・パキスタン（SMP）と関わりがあり、宗教学者を対象とした複数の標的型殺害に関与したとみられるテロリスト１人を逮捕したと発表した。
○　28日、バロチスタン州内相は、治安部隊がIBOを実施し、バロチスタン州南部で未成年の少女２人を自爆テロに利用しようとしたBLAの計画を未然に阻止したと発表した。
○　29日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡のデラ・ハタラ道路沿いにあるアミン・ファーム付近で、TTPに所属するとみられるテロリストらが警察部隊を襲撃し、警察警察官１人が死亡、副警視、警部補、女性警察官を含む警察官５人が負傷した。
○　30日、KP州ラッキー・マルワット郡の農村部で、ティプグル及びアルシャド・ナワーズ・グループに所属するテロリスト２人を逮捕し、同テロリストの潜伏場所を破壊した。
○　31日、KP州カラク郡でパトロール用のバンに乗車していた警察官がテロリストによる即席爆発装置（IED）の攻撃を受け、警察官１人が死亡、６人が負傷した。

９月
○　４日、軍統合情報局（ISI）対諜報総局長のファイサル・ナシール少将は、国家テロ対策局（NACTA）の国家調整官に任命された。
○　３日夜、KP州ペシャワール郡で身元不明の武装集団が警察官に発砲し、銃撃戦となった結果、警察官１人が殉職、アフガン国籍者２人を含む襲撃者３人全員が死亡した。
○　５日、アーザード・ジャンムー・カシミール（AJK）バグ地区及びタラール・カルの２か所で武装集団が無差別発砲を行い、準軍事組織隊員１人が殉

職、１人が負傷、襲撃者１人が死亡した。
○　６日、バロチスタン州ヌシュキ郡でバロチスタン・アワミ党（BAP）の地区委員長が身元不明の武装集団によって射殺された。
○　６日、同州チャガイ郡で部族長老１人がオートバイに乗った武装集団に襲撃され、死亡した。
○　６日、KP州コハート郡ワリでTTPが発射した無人機が住宅地に墜落し、少女1人が死亡した。
○　７日、 KP州ハングー郡タール地区ダランでFCが武装集団による即席検問所設置の試みを阻止し、テロリスト２人を殺害した。
○　８日深夜、KP州カラク郡シャタカイ・ダムで警察の巡回部隊が身元不明の武装集団による襲撃を受け、警察官１人が殉職、１人が負傷した。
○　９日、海軍広報局（DGPR）は、海上警備活動中に海軍隊員２人が殉職したと発表した。
○　９日、KP州ラッキー・マルワット郡の各地で警察が実施した捜索・掃討作戦において、指名手配犯を含む犯罪者18人を拘束し、違法武器及び弾薬を押収した。
○　10日、バロチスタン州カラート郡マルジャンのクエッタ・カラチ国道上の橋がバスの通過中に爆破され、複数の乗客が負傷した。
○　10日夜、バロチスタン州マストゥング郡カンクで身元不明の武装集団が検問所へ発砲し、警察官1人が殉職、１人が負傷した。
○　12日、バロチスタン州グワダル郡のイラン国境付近で身元不明の武装集団が小型車両に発砲し、ナショナル・ロジスティック・セル（NLC）職員４人が死亡した。
○　13日、シンド州レンジャー部隊の報道官は、同部隊及びシンド州警察CTDがカラチ市シェルシャーで実施した合同作戦において、TTP所属の重要指人手配テロリスト１人を殺害したと発表した。
○　13日、KP州南ワジリスタン郡ワナ地区カリジ・パルで恐喝金の管理権を巡りTTP及びTTG所属の武装グループが銃撃戦を繰り広げ、数人が負傷、過激派指導者であるスヘイル・ムガルケルが死亡した。
○　14日、KP州バンヌー郡ダウド・シャーで、武装勢力による発砲により、バザールの店にいた警察官１人が死亡した。
○　14日、KP州バンヌー郡バンヌー警察署管轄内で武装勢力による発砲により警察官１人が死亡した。
○　14日、KP州バンヌー郡ドメル・パインで平和委員会メンバーと武装勢力の間で衝突が発生し、民間人１人が負傷、１人が死亡した。
○　14日、KP州バンヌー郡ワジール地区でテロリストによるとみられるクアッドコプターによる攻撃が発生し、民間人２人が負傷、２人が死亡した。
○　14日、KP州マルダン郡タクート・バイ警察署管轄内のスリ・バホル警察哨所で手榴弾による襲撃が発生し、警察官３人が負傷、テロリスト１人が死亡した。

○　16日、ギルギット・バルチスタン（GB）警察は、パキスタンと中国がフンザ上流地域にあるクンジュラーブ峠付近・標高約4700メートルのマンティカ峠で合同パトロール演習を実施したことを声明で発表した。同声明は、同演習がパキスタンと中国の揺るぎない友好と緊密な関係を反映しており、協力・連携・相互支援の強化に向けた両国の決意を再確認するものであると付け加えた。

○　バロチスタン州ワド郡アランジ地区にあるPPP指導者・シャフィクール・ラフマーン・メンガル氏のキャンプで発生した武装襲撃により、警察官１人を含む５人が死亡、１人が負傷した。

○　16日、KP州スワビ郡のカル・カーン警察署管轄内の自宅にいた警察官１人が、身元不明の襲撃者の発砲により死亡した。

○　16日、KP州ペシャワールから約15マイル南に位置するインダス・ハイウェイで、リキシャに仕掛けられた車両搭載型即席爆発装置（VBIED）が爆発し、警察官１人と民間人１人が負傷した。

○　16日、KP州アッパー・ディール郡ドバンド地区で、平和自警団ボランティア2人がテロリストとの銃撃戦により死亡した。

○　18日、KP州コハート郡の旧警備厳重地区のモスク付近で爆発物を積んだ車両が爆発し、その後テロリストが敷地内に突入して警察施設を襲撃した。これにより、警察官17人を含む23人が死亡、100人以上が負傷した。ハーフィズ・グル・バハーダル率いるパキスタン・ムジャヒディーン連合（IMP）が犯行声明を出した。

○　18日、バロチスタン州クエッタ市サリアブの住宅内で、２人がオートバイに仕掛けようとしていた爆発物が誤爆し、２人とも死亡した。

○　16日、KP州ペシャワール市マタニのインダス・ハイウェイで車両搭載型即席起爆装置（VBIED）が爆発し、警察官１人及び民間人１人が負傷した。

○　当地諜報機関関係者によると、インドの調査分析局（RAW）の支援を受け、タリバーン暫定政権幹部と緊密に連携しているテロ組織が、アフガン領内を拠点としてテロリストの訓練や隠れ家を提供し、BLA及びTTPといった代理勢力を通じてバロチスタン州及びKP州での攻撃に資金提供しているとのこと。

○　19日、バロチスタン州パンジュグール郡ゴワルゴ地区及びチャガイ郡アミラバード及びシハ・チュングで治安部隊はIBOを実施し、各々テロリスト５人及び６人を殺害した。

○　パンジャーブ州警察CTDは同州全域で実施した158件のIBOでテロリスト23人を逮捕したほか、サルゴダ郡サヒワル地区でRAWとの関係が疑われるテロリスト容疑者１人も逮捕した旨発表した。

○　19日未明、KP州タンク郡で、南ワジリスタン郡南部の地方裁判所の司法監督官１人が自宅から武装集団に拉致された。

○　18日～19日夜、バロチスタン州カラート郡近郊のチャマン・カラチ国道沿いでテロリストが検問所を設置し、人々の平和な移動を妨害しようとしたこ

とを受け、治安部隊は直ちに対応し、銃撃戦でテロリスト５人を殺害した。マタ、治安部隊はテロリストの隠れ家から拉致されていた23人を救出した。

○　19日、バロチスタン州チャガイ郡のチャガイ・バザールにあるバスターミナルで、チャガイ警察署長が身元不明の武装集団に拉致された。

○　20日、KP州バンヌー郡カント警察署管内のカラム・ガリで連邦警察隊（Frontier Constabulary）隊員２人が行方不明となった。また、同郡のハティケル族が今日中する山岳地帯カルシンドの住宅がテロリストによるドローン攻撃を受け、男性１人とその息子が負傷した。

○　20日、バロチスタン州カラン郡ラジャで同郡長及びその他3人が武装集団に拉致された。

○　20日にKP州バンヌー郡カラム・ガリで身元不明の武装集団に拉致されたとみられる辺境警察隊（Federal Constabulary）隊員２人の遺体がパロシで発見された。

○　20日深夜、KP州カラク郡で警察官１人が身元不明の武装集団からの発砲を受け殉職した。

○　22日、バロチスタン州ノシュキ郡でポリオ・ワクチン接種チームが武装集団からの発砲を受け、護衛の警察官２人が殉職した。

○　26日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡ダラジンダ地区の住宅街で爆発物を積んだトレーラーがアマン・メラ検問所に突っ込み、民間人12人が死亡、35人が負傷した。また、爆発現場から回収された遺体を搬送していた救急車が襲撃を受け、職員２人が殉職、１人が重傷を負った。国営放送のラジオ・パキスタンはTTPの犯行である旨報じた。

○　26日、バロチスタン州デラ・ブグティ郡ロティで同郡評議会議長の自宅がテロリストの襲撃を受けた。同氏の警護のために配備されていた新政府派の部族民兵組織「ブグティ平和部隊」は反撃し、少なくとも８人のテロリスト容疑者を殺害した他、７人を逮捕した。銃撃戦で、同平和部隊の警察官１人が殉職、メンバー３人が負傷した。

○　バロチスタン州クズダール郡ナール地区で部族指導者1人が身元不明の武装集団の銃撃を受け死亡した。

○　バロチスタン州クズダール郡ナール地区でサルダール・ムハンマド・アスラム・ビネンジョ国民党（NP）幹部の自宅が身元不明の武装集団の発砲を受け、警備員１人が負傷した。同NP幹部は不在だった。

○　バロチスタン州ドゥキ郡ナナ・サーヒブ・ジアーラトで道路建設会社のキャンプが武装集団の襲撃を受け、作業員18人が拉致された他、警備員１人が死亡、もう１人が重傷を負った。

○　25日、KP州ワジール郡の山岳地帯ハティケルで、治安情勢の悪化のため安全な場所へ避難するために荷物を運搬していた13人がテロリストに人質に取られた。

○　26日、KP州ラッキー・マルワット郡アブドゥルケル付近でテロリストの襲撃を受け、村民３人が死亡、３人が負傷した。

○　28日、KP州タンク郡ワジラバード・バザールで交通警察の車両が身元不明の武装集団の発砲を受け、交通警察官3人が殉職、通行人２人が負傷した。
○　28日夜、KP州ペシャワール市内のシャムシュトゥ検問所が爆発物で襲撃され、警察官１人が負傷した。
○　29日、KP州バンヌー郡ワジール地区の山岳地帯ハティケルで25日にテロリストに拘束された13人が地元長老の交渉を経て解放された。
○　同日、同郡タルギで治安部隊はテロリストに対する作戦を実施し、容疑者８人を拘束した。